

編集/コンビニの会事務局  
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地  
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人  
コンビニの会

定価/150円  
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第166号



メコンに昇る朝陽

## 「朝のリレー」タイ・チェンセン

自然写真家 河嶋秀直

タイの北部にラオスと国境を接するチェンセンという小さな町がある。

昔は、王国があり繁栄していたが、今は静かに時を刻んでいる。

国境はアジアの大河「メコン川」で、たおやかに悠久の流れを見せるだけ。

早朝、朝陽の昇る前のメコン川は、一面に朝靄が立ち込め、対岸のラオスもまだ眠りの中にいる。

漁をする小舟が時折現れるだけで、静寂とした雰囲気の中にいる。

そして朝陽が昇ると景色たちも一気に目を覚まし、鮮やかな色で輝きます。

タラート(市場)からも声が聞こえだし、ココナッツミルクの甘い香りも漂ってくる。

そのメコン川が織りなす朝のドラマに見入ってしまった。気が付くと1週間も滞在してしまっていた。

毎朝、僕の頭の中に谷川俊太郎さんの「朝のリレー」の詩が浮んでいた。(次頁へ)

僕が見ている朝は、ラオスからリレーされてきて、ミヤンマーへとリレーされていく。

世界は、そうして朝をお隣りへリレーすることで成り立っている。

令和六年、元日から震災や飛行機事故などがあり心が痛む年明けとなりました。

それでも朝は巡りますので、一日でも早く穏やかな朝を迎えられるよう願っています。

ここ数年はコロナ渦中で、色々な制約を受けていたが、最近、光明が差ってきて笑顔が戻ってきている気がする。

コロナ前のような生活に戻るのには難しいかもしれないが、今なりのささやかな営みを続けられる事が一番幸せなのかもしれない。

明日も、世界の一人として朝をリレーしていこうと思っています。



チェンセンの朝の景色

### 雑記 ごまめの歯ざしり

#### パズルのピースを探す旅

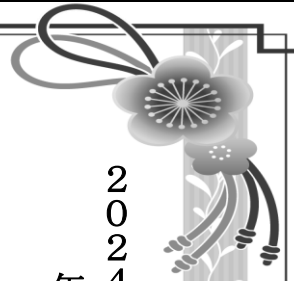
私にはちよつと年の離れた従妹がいる。母の弟の娘たちで、ひまわり（仮名）とすみれ（仮名）の姉妹だ。二人共四十代。現在茨城県に住んでいる。彼女たちの父親は七年前に、母親は三年前に相次いで亡くなっている。そんな二人が昨年、愛知県の私の実家に約三十年ぶりにやって来た。

朝早く茨城を出てずつと車の運転をしてきたひまわり。独身で世界中を飛び回っている。私の顔を見るなり「明美ちゃんでしょ」とピンクのワンピースで颯爽と現れた。一方、すみれは、スポーツウエアのようなラフな格好で車から降りてきた。ベジタリアンで、連れ合いは山の仕事をしているという。全く対照的な二人だった。早速皆で食事をする事になりテーブルに着くと「父のことで知らないことがたくさんあります。お話聞かせて下さい」とひまわりが母に頭を下げた。

母は四人姉弟の長女で三人の弟がいる。残念ながら弟たちは皆亡くなっており、もはや昔のことを語れるのは母だけになったのだ。（母の）母親が三十代で亡くなったために、父親はそのショックから立ち直れず働くことが出来なかったそうだ。当時十代の母は三人の弟たちの世話をしながら生活を支えていた。ひまわりとすみれの父親は、経済的な事情で大学進学を一旦諦めたが、勉強を続けたいという思いから自力で進学した。大学では基礎医学の研究を続け定年まで教壇に立った。

今回彼女たちにとって、自分のルーツを探るといよりは、大好きな父親のことを知りたい、まだ埋まっていないパズルのピースを一つずつ探すようなそんな旅だったのかもしれない。性格が正反対の二人がこの旅で何を受け取ったのだろうか、今度は非聞いてみたい。

（支援者 上村 明美）



2024年

年頭ご挨拶

特定非営利活動法人コンビニの会 理事

社会福祉法人エゼル福祉会 評議員

宮川 優子

会報読者の皆さま、今年もよろしくお願ひ  
します。

2024年は元日から名古屋でも地震の  
揺れに驚かされ、能登地方での大きな被害は  
悲しみに耐えません。

昨年は新型コロナウイルスの5類への移  
行により、生活や仕事が徐々に自由になり張

りつめていた気持ちが少しずつ和らいでき  
ました。いまだにインフルエンザなどの感染  
症予防のためにエゼル福祉会では職員につ  
いてはマスクの着用が原則になっています。

今後は利用者の皆さんが外出の機会を増や  
し、スポーツ観戦、観劇、映画鑑賞など心豊  
かに過ごせる時間を作りたいものです。また、  
昨年末には北区役所講堂をお借りして、久し

ぶりに以前と変わらないクリスマス会を開  
催できました。参加された皆様、ご寄付を頂  
きました団体、企業、個人の皆様に感謝申し  
上げます。

2019年に西区歌里町に本部が移って  
から中小田井の古い施設の建て替えの話が  
持ち上がりました。コロナの蔓延がなければ

もう少し早く、親亡き後の生活を見据えた支  
援の体制ができていたでしょう。予定より遅  
れましたが当事者、親、職員、役員で時間を  
かけて設立準備の話し合いが持てたことを  
幸いとして今年中に新施設の着工の見通し  
となりました。ここに至る過程はホームページ  
から過去の会報が読めるようになってお  
りますのでそちらをご参照ください。

コンビニの会で昨夏、設立に至るまでの経  
過をまとめた小冊子『夢をつないで』を発行  
しました。関係者の皆様の手元に届くように  
しましたが、ご希望の方はご連絡ください。

おかげさまで多くの反響がありました。苦し  
かったけれどがむしゃらに活動した時期を  
懐かしむ声や若い頃の経験が現在の仕事に

生かされているなどの感想を寄せていただきました。記録に残したことで未来のエゼル福祉会が進む道に迷った時、原点がここであると気づけることを期待しています。

小冊子をあらためて読み返しますと設立の頃の熱量の高さに驚かされます。障害者に対する公的な支援がほとんどない中で重度の障害を持つ人たちが入所施設ではなく、地域で暮らせる仕組みを作るということは大きな夢でした。その夢を一緒に叶えようという呼びかけに元気いっぱい当事者、家族、ボランティアの主婦や学生が集まってきました。お金がないのに、目の前の問題に夢中に取り組み、今からみれば荒っぽいことをして道を切り開いてくれました。

さすがに約三十年たちますとこのたび新施設を作る準備の過程は全く違います。目標は同じ障害者の自立生活を実現することであってもレスパイトやレクリエーションではなく、24時間365日の暮らしを引き受ける覚悟の取り組みです。支援の中心は公的な制度が整い、社会福祉法人に移行してから入職した20代、30代の若い職員です。話し合いの場での発言を聞いていますと介助介護の質へこだわる使命感の強い集団だと感じます。経験が浅いことは十分にわかっていますから足りないところは理事会や評議委員会を支えるので自信を持って新しい挑戦に取り組んでほしいと願っています。

さて、令和4年版厚生労働白書では「社会

保障を支える人材の確保」がテーマになっています。医療、福祉の業界では、事業者、行政、利用者どの立場であっても人材不足に対する危機感を持っています。少子化で労働力の供給が見込めず、制度はあるものにあふれるニーズに応えられない未来が来るということですが。

会報でも人材確保に四苦八苦している現状をお伝えしてきました。一法人の努力ではどうしようもない構造的な課題があります。ICT、AI、ロボットなどを活用しても限界があるので、支える人材を確保するためにはさらなる処遇の改善を行政に求めます。また、NPO法人としては制度外の対応や長期的な視野に立つ活動を進め、互助（ともに助

け合う)のあり方を探りたいと思います。

最後になりましたがちょっとだけ私の話。

仕事の引退を考える時期になり、人間相手の仕事の面白さがわかってきました。今頃、遅いですけど。

父親を中学1年生の時亡くした私は経済的な理由で教員になりました。就職する時、母親は「優子には向いてないと思う。」と言われたほどです。死語になりましたが昭和の典型的な先生でもなるか、先生にしかなれない『でもしか先生』でした。

勤め先の高校で初めて担任を持った時、学年主任が「こどもに教えるのは学校ができる前から人類がずっとやってきたことだから難しくない。自分の人間性を出してやりな

い。」とアドバイスをくれました。失敗を恐

れ肩に力が入って鼻息の荒い私に何か言わずにはおれなかったのでしょう。実際47名のクラス経営はしんどかった。ちなみに2年目は程よく力が抜けて楽しかったです。結局、生まれてきた息子に障害があることがわかり、退職、そして予備校へ転職して三十数年経ちました。

もちろん職業適性はあった方がいいのですが、それが無くても人間を育てたり、世話をしたり人の営みに関わる仕事は人間性で深化させることができます。豊かなコミュニケーションに心がけ、心理的な安定を作ればきつとうまくなります。エゼルの職員だけでなく若い人がなかなか周囲に助けを

求めず孤立して悩んでいることが気になります。

最後になりましたが2024年はエゼル福祉会にとっては新施設建設で忙しくワクワクする年になります。会報読者の皆様にも幸いが訪れますようお願い申し上げます。にも変わらぬご支援をお願いいたします。



金山のトウテンブックストアに委託販売をお願いしています。売れました！





# 2023クリスマス会

2023年12月22日(金)

コロナで自粛していたクリスマス会を4年ぶりに開催いたしました。



大川理事長より皆様へご挨拶



司会(大西・大森)



開会宣言  
(小出朱里さん 鈴木丈登さん)



イオンサンタさん♪

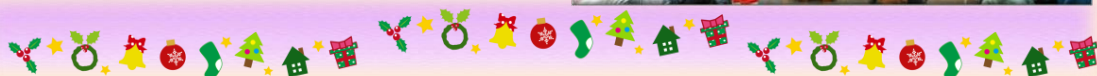
## Ritz(リッツ)



イオン・ワンダーシティサンタさんから  
プレゼントをいただきました



Ritzさん  
今年も素敵な  
演奏をありがとう♡



### 当日ご協力頂いたボランティアの皆様 (順不同・敬称略)

- 池田真一 高部俊介 寺西 剛 服部琢朗 小林愛恵 中川真理乃 渡辺陽妃 富田愛理
- 青山颯花 鈴木萌日 篠田倫子 田原朋代 林 京香 小林要介 早坂ほのか 榊原つぐみ
- カメラマン(長谷川友子・近藤大芝・高須竜樹)





## お楽しみ大抽選会

特別賞☆ステーキ用お肉  
大当たりで〜す!!



### ご寄付・ご支援頂いた皆様 (順不同)

イオンワンダーシティ 様  
 GTソリューション (株) 様  
 (株) 加藤建築事務所 様  
 (株) カミヤマ 様  
 税理士事務所 HERITAGE 様  
 オートサービス名古屋 様  
 (有) 鈴幸商会 様  
 日新火災海上保険 (株) 様  
 愛知銀行 小田井支店 様  
 大垣共立銀行 小田井支店 様  
 モバイルシステム (株) 様  
 山田肥名子 様

### みんなで集合写真





## 実践指導を振り返って

通所部 W I L L

大森 直子

先日、W I L L職員5名で、エゼル福祉会の黎明期を支え、現在は法人理事として関わっていただいている大脇美由紀氏から受けた実践指導について振り返りを行いました。

昨年4月からの約8か月間は、大脇氏が実際に支援現場に入り、支援を見て学ぶ、現場で意見をもらい、必要なことを一緒に考えていく、という職員にとって大変贅沢な時間でした。

まだ、実践指導は続きますし、取り組むべ

き課題も残されていますが、この間を振り返り、それぞれが得たもの、感じたことをまとめました。話し合いの後、大脇氏にもコメントをいただき、各項目の最後に添えさせていただきます。

### ■ 利用者の24時間を通して

#### 見ることの大切さ

大脇氏は現在、「1っぽ」というヘルパー事業所を運営されており、ご自身も支援者として何名かのW I L L利用者の居宅支援や外出支援にも関わっておられます。

自宅での様子や知らなかった一面を聞くことができ良かった、利用者の24時間を通して見るこの大切さを学んだ、エゼルで居宅支援を担っている生活支援部との連携の大切さを改めて感じた、などの意見が出ました。

✿ 大脇「行動には必ず理由がある。その理由は家庭での出来事も多い。理由を知ること支援の方向性が見えてくる。」

### ■ 利用者の過去を知ることの大切さ

大脇氏がエゼルに在籍されていた当時の様子を聞くことができ、今は穏やかに過ごしている利用者も、過去には必要とする支援に出会えず混乱していた時期があったこと、一緒に悩み、苦しみ、全身で支えた職員の奮闘と、今に至る利用者の軌跡を知ることができ良かった。

✿ 大脇「利用者の成育歴や過去を知ることはもちろん、現在、そして未来を見てくることが大切。未来の力を引き出していける支援者となって欲しい。」

### ■ 記録の大切さ

現場で記録することの大切さを学び実践



しました。

その場で記録することで、今実際に起きて  
いる事象を客観的に捉えることができ、振り  
返る時に、より事実在即した検証が可能にな  
りました。

また、記録の重複や、必要のない記録を  
取っていることで、本当に必要な情報を残せ  
ていないことについても指摘があり、新しい  
書式作りにも取り組みました。

この書式を作る過程で、それぞれの利用者  
のどこに着目して支援を行っていくべきな  
のか、という点も意識することが出来ました。

❀ 大脇「記録を取ることで、支援に『裏付  
け』ができ、『変化』が見えてくる。」

## ■ 授産現場の在り方 ■

実践指導が始まった当時、軽作業チームは、  
部品の組み立て作業と実質工賃の発生しな

い分別作業を軸に、利用者の体調や気分に応  
じて、できる分だけをやるという状況でした。

最初に大脇氏から受けた指摘は、仕事をする  
場としての「あいまいさ」。

指摘を受け、変化を模索していた折、部品  
組み立て業者から急な工場閉鎖の連絡が入  
りました。慌てて新しい軽作業を探し、工程  
を一から考え、組み立てていきました。

結果、せっかく探した請負業務でしたがお  
断りすることになったものもあります。そう  
いったことも含めて「利用者にとって」とい  
う目線で仕事を選び、軽作業授産の在り方を  
見直すことができました。

❀ 大脇「授産は職員が一緒に取り組まないと、  
利用者に『やらせている』ことになって  
しまう。職員が真剣に取り組むことで『仕事  
をする姿勢』を見てもらい、緊張感を持って

取り組むことで『仕事をする場』を意識して  
もらうことができる。」

## ■ 自信とやる気につながった ■

迷っていた支援に『それでいい』という言  
葉をもらえて自信とやる気につながった。

8か月間は、職員がお互いの意識の変化を  
感じ取れるほど、実り多い充実した時間でした。  
この機会を与えていただけただけことに感謝  
し、残された時間も大切にしていきたいと思  
います。

❀ 大脇「日々しっかりと利用者に関わるこ  
とで、もっと変化していける。WILLが利  
用者にとって安心できる場所になるよう、職  
員は覚悟を持って、本気で取り組んでいって  
欲しい。」



# 《活動状況》

## 11月

- 1日 同朋大学訪問 (榊原・山崎)
- 3日 WILL・VOLO 祝日開所
- 1-3日 サビ管更新研修 (溝口)
- 11日 サロンうたさと開催 (ピノ/宮崎仁子氏)
- 6.7日 喀痰吸引研修 (小林)
- 10日 あいされん役員会 (溝口)
- 13日 名古屋市行政懇談会 (榊原・溝口)
- 13日 生活支援部運営会議 通所主任会議
- 15日 VOLO 日帰り外出
- 18日 理事会
- 22日 人権倫理研修 (岩下)
- 24日 会報発送
- 26.27日 障全協 全国集会中央行動  
(溝口・木村・馬淵・松井)
- 27日 ターミナルケア研修 (渥美)
- 30日 特別支援学校卒業後対策協議会

## 12月

- 2日 サロンうたさと開催  
(野のゆりアンサンブル)
- 5日 精神障害研修 (馬淵)
- 6日 会報会議
- 8日 あいされん役員会 (溝口)
- 7.14.21.28日 行動援護研修 (北出)
- 12日 生活支援部運営会議
- 13日 名古屋特別支援学校PTA 施設見学
- 15日 人材定着研修 (木村)
- 16日 評議員会
- 16日 知的障害者研修 (有満)
- 16日 人材フェア (木村・久野)
- 20日 対人援助技術研修 (高橋)
- 22日 エゼル福祉会 クリスマス会(北区役所)
- 23.24日 動作法研修 (渥美・大西・松本)
- 28日 WILL・VOLO 忘年会
- 29日 通所総括・大掃除

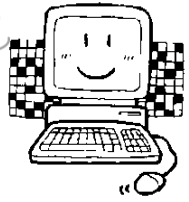


クリスマス会 収支ご報告 2023/12/22



収 入			支 出		
明 細	寄付のお品	現 金	明 細	寄付のお品	現 金
1 クリスマスチケット売り上げ 83名様		51,400	1 会場費 北区役所講堂		18,200
2 寄付金			2 舞台・演出備品		7,707
ご支援いただいた企業様 8社		145,000	3 出演・謝礼費等		103,574
ご支援いただいた個人様 2名		5,600	4 その他・雑費		94,257
クリスマス会当日参加者寄付		17,400	景品購入・お土産お菓子 ボランティア保険 等		
3 寄付のお品			5 抽選の品	特別賞 ステーキ肉	
ご支援いただいた企業様 5社	ハム詰め合わせ			1等 なだ万食事券	
ご支援いただいた個人様 1名	お米5キロ			2等 ハム詰め合わせ	
	カップ麺			3等 お米5キロ	
	お茶			4等 カップ麺セット	
	BOXティッシュ			5等 おたのしみセット	
	マイクロファイバータオル		6 参加者様へのお飲み物	お茶	
	エコバック				
	クマの形ハンドタオル				
	卓上カレンダー				
	ぬいぐるみ				
合 計		219,400	合 計		223,738
				差 引	-4,338

事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

11月～12月（敬称略・順不同）

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

安永麻里 石原優樹 鈴木丈登

高松幸太 水野香織 高田真由美

山田肥名子 市川まゆみ

(WILL)

丹羽恵子

(VOLO)

安永麻里 石原優樹 鈴木丈登

高松幸太 久保昴太郎

長野資子 早川佳乃

★ 会報発送ボランティア

吉田嘉子 丹羽正子 半田素子

山田喜代子 藤田ますえ

渡辺世津子 高田よし子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

石原正寅 辻本道子 大森 信

石原まち 寺西 剛 酒井まみ子

桐澤 潮 鈴木千春 玉那覇詠洸

後藤 楓 佐藤晴紀 梶田里奈

山本 武 田村淳仁 東原光江

西川昇吾 篠田倫子 小林愛恵

松井暖実 鈴木悠太 榊原つぐみ

林 京香 本島朋子 青島優津樹

北出麻衣 上田悠仁 白木佑叡

長谷川美緒 中川真理乃

★ 地域サロンボランティア

11月 今井智恵子 長谷川美緒

12月 小林愛恵 田原朋代 長谷川美緒



# 長い間ありがとうございました！ コンビニリフト

日本財団様より助成していただき、2004年から走り続けていました。老朽化に伴い2024年1月で廃車することになりました。コンビニの会、エゼル福祉会と共に歩んだリフト車。利用者さんの送迎や通院、外出へ色々な場所に行きました。長い間ありがとうございました。



## 【 職員からひとこと 】

コンビニの会設立当時、職員やボランティアが自分の車を持ち寄りなければいけないほど車両に困っていたなか、車椅子のまま乗車できるピカピカのリフト付きハイエースは本当にありがたい存在でした。新人職員が入るたびこぶつけてしまい今では傷だらけですが、余暇支援から国会請願までこの車両はいつもコンビニハウスの活動を支えてくれました。

【銀行口座】三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108

特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

**コンビニハウス** Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

**コンビニの会**

理事 宮川 優子

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail [convini@ezeru.or.jp](mailto:convini@ezeru.or.jp)

